

平成23年  
3月11日

午後2時46分 宮城県沖を震源とする、マグニチュード9.0の地震が発生しました。  
これは国内観測史上最大で、1,000年に1度といわれる規模です。  
未曾有の被害をもたらした東日本大震災の発生から10年。被災地では  
今もなお、復興工事が続く場所があります。

被災地に思いをはせると同時に、自らの備えを再確認しませんか。



2・3面に震災当時の写真を掲載しています。苦手な方は、ご注意ください

## 新型コロナ関連記事は6・8面

目次

1～4面…**特集** 3.11を忘れない…「最大の被災地」宮城県石巻市で暮らす人の体験談や、平塚市の津波ハザードマップを使った取り組みなどを紹介します。  
5～7面…募集・お知らせ・健康と福祉・スポーツ・「美術館だより」  
8面…新型コロナ関連記事・ヒラツカルチャー

平塚市の人口と世帯数  
<令和3年2月1日現在 ( )内は前月比>

人 □ 257,287人…(-125)  
世帯数 113,688世帯…(+61)



# 「最大の被災地」石巻、あの日の思いを胸に。

# 3.11を忘れない

宮城県石巻市の死者・行方不明者は合わせて3,602人で、全国の犠牲者の約2割を占め、全市町村の中で最多。これが最大の被災地といわれるゆえんです。昨年11月、平塚市と災害時相互応援協定を結んでいる石巻市を訪れ、同市職員や震災の経験を伝える方に話を聞きました。

## 震災を語り継ぐために

石巻市震災伝承推進室 水澤秀晃 室長 菊地陽介 主幹  
同 復興政策課 吉田康 課長補佐

「ここ日和山は、石巻で一番景色が変わった場所かもしれないですね」と遠くを見つめて話す吉田課長補佐。「標高約60mで海から1kmほどの位置にあり、津波で甚大な被害を受けた地域を見渡せませし、復興の様子も見えますから」と続けます。

石巻の市街地には、旧北上川が流れています。初代仙台藩主伊達政宗の命によって河川改修が行われ、岩手県の盛岡までつながりました。石巻は水上輸送された米の集積地となり、川に港をつくって江戸に運び出すようになって栄えたという歴史があります。川と共に暮らしてきたという背景から、旧北上川には堤防がありませんでした。

しかし東日本大震災では、津波が川を遡上し、水があふれて市街地を飲み込み、多くの人や建物に被害を与えたのです。市街地のみならず、各地で甚大な被害が出ました。

同市は震災後、10年間の復興計画を掲げ、新しいまちづくりを着実に進めてきました。津波の勢いを減らすために防潮堤をつくり、さらに内側に土を盛って高くした道路をつくることで、二重の防御

### 震災を伝える小学校

日和山の南側ふもと、海から約700mにある旧門脇小学校は、1階部分に津波が押し寄せ、流されてきた車やプロパンガスのボンベが原因で起きた火災が2・3階部分に燃え移るなど、甚大な被害を受けました。

「ここは私の母校なんです」と切り出す水澤室長。周囲にたくさんのお宅があり、海が近いという感覚は、さほど無かったです。震災後、津波で住宅が流され、海が見えた時「こんなに近かったのか」と思いました」と振り返ります。

地震直後に学校にいた児童や教員は、津波が来る前に避難して助かりました。「学校の西側に、日和山に続く細い道(右下写真)があるんです。当



日和山で当時を振り返る水澤室長(右)・吉田課長補佐(中央)・菊地主幹。後ろに流れるのが旧北上川



震災当日、同じ場所から撮られた写真。出典:東日本大震災アーカイブ宮城(石巻市)



校舎の外壁の中で、モルタルがはがれて色が変わっている部分が見える。壮絶な火の強さを物語っています



「津波から逃げるときは、高く遠くへと考えます。東日本大震災でも、ビルの上へ逃げて助かった人が大勢います。しかし旧門脇小学校は、建物の上階に避難したものの、火災で逃げ場がなくなつた例となりました。最適な避難場所は、その場その場で変わるもの。命を守るための最善策は何なのかを事前に考えることが、いざというときの判断につながります」。



階段から上は震災当時とほとんど変わっていません

### 宮城県 石巻市

人口約14万で、仙台市に次ぐ宮城県内第2のまち。リアス式海岸特有の入り組んだ海岸や岬が多く、海あり・山あり・川ありの風光明媚な場所です。金華山沖は親潮と黒潮が交わっていて、世界三大漁場の一つに数えられています。

石巻市と平塚市は平成9年に災害時相互応援協定を結びました。震災以降、物的支援のほか、復旧・復興に協力するための人的支援として、平成23年度から現在まで、延べ77人の職員を派遣しています。



#### 東日本大震災の概要

- 発生日時 平成23年3月11日(金)午後2時46分
  - 震源 宮城県牡鹿半島の東南東約130kmの三陸沖 深さ24km
  - 規模 マグニチュード 9.0
  - 最大震度 7 (石巻市は6強)
- 石巻市の被害 令和2年12月10日現在〔 〕内は全国
- 死者 3,187人 [15,899人]
  - 行方不明者 415人 [2,527人]
  - 全壊 20,044棟 [121,992棟]
  - 半壊 13,049棟 [282,920棟]
  - 一部損壊 23,615棟 [730,392棟]

# 石巻の記憶と未来

石巻市復興まちづくり情報交流館中央館  
リチャード・ハルバーシユタット館長

「旧門脇小学校が震災遺構として完成するまでの間、震災と復興の情報を発信する場所として平成27年にオープンしました」と話すリチャード館長(左写真)。「以来、国内はもちろん、海外からも多くの人が訪れます。私はイギリス出身なので、外国籍の人に向けて英語で解説することもあります」と続けます。



リチャード館長は現在、石巻に住んで27年。震災当時は石巻専修大学で教員をしていて、震災で親しい友人を亡くしたといいます。その後、福島原発事故の影響を懸念するイギリス大使館は、母国へ帰る人を募りました。しかし「石巻に友人がたくさんいて、みんな困っている中で、自分だけ離れるという気持ちにな

れなかったんです」と、石巻に残ることを決断。今では「リチャードさん」とファーストネームで呼ばれるほど、石巻の人に愛されています。館内は、過去・現在・未来をイメージして三つのゾーンに分かれています。一つ目は震災前の石巻の歴史を振り返る過去のゾーン。リチャード館長は「石巻市民が懐かしんでいる光景をよく目にします」と話します。



二つ目のゾーンは現在。震災による被害のデータ、震災直後や復興の様子を収めた写真などを展示しています。リチャード館長は「被災直後の街並みを見つめる住民を写した一枚(右写真)に、大きく心を揺さぶられます。自分の人生全てが、根こそぎ覆されるような風景を見ると、言葉も出ないです」と語ります。「死者の多さなどが注目され

がちですが、生活している私たちにとっては、街じゅうが泥だらけになったことも大きな問題でした。泥をかき出すのは重労働で、津波で運ばれてきた魚が至る所に散乱して臭いも強烈。もし夏場だったら、衛生環境がとんでも悪くなっていたでしょう。震災当時の写真から、さまざまなことを感じ取ってもらえるゾーンだと思います」。

三つ目は未来を表すゾーン。復興事業が終わった後の石巻市のジオラマや、メッセージを書き残せるパネルなどがあります。「石巻の観光大使を務めている落語家の林家たい平さんは、ここに来るたびに書いてくれます。落語家になると決意した場所が、日和山だそうなんです。震災後、炊き出しや無料の落語会など、さまざまな形で支援してくれています」とリチャード館長。「多くの人に震災の真の部分を知ってもらい、対策につなげてほしいです。新型コロナウイルスが落ちついたら、ぜひ石巻にお越しください」。



心のコもった書き込みの数々。外国人からのメッセージもたくさんあります

## 経験を伝える

石巻観光ボランティア協会  
事務局長 高城禎彦さん

高城さんは津波で身内を3人亡くしたのみならず、自宅の床上70センチまで津波が押し寄せて1階が全壊するなどの被害を受けました。震災からおおよそ1年後、定年退職した翌日から、現場を巡りながら震災の経験を語り部として、活動をしています。高城さんをはじめとする語り部は、今までに約13万人を案内しています。



人それぞれ震災による被害の受け方が違って受け止め方も違います。亡くなった方の遺族も心の傷の具合はみんな違います。私の場合はこうだった、ということをお話しますね。

私は生まれも育ちも石巻。震災当時は59歳で、石巻の消防職員でした。身内で亡くなったのは叔母と叔父、いとこ。叔母とは震災の数日前、電話で「今度のお彼岸に会おうね」なんて話していたんです。すぐに会えると思っていた親しい人が突然亡くなり、強い衝撃を受けました。私の場合は3人とも遺体が見つかった、供養することができました。まだ見つからない人の家族からは「骨のひとかけらでも見つかってほしい」と、切実な思いを聞きます。私の職場の同期が殉職し、遺体が見つからぬままの葬式に参列しました。遺体に話し掛けることもできず、遺族に何と声を掛けたいのかわからない。異様な雰囲気だったのを覚えています。

震災直後、消防活動をしている最中は目の前の業務に必死。しかし、仮眠する時などに、ふと家族のことが気になるんです。家族が無事だというのが分かったのは4日ほど後でした。叔母たちの情報が入ってきたのは1週間後くらいで、どうも見つからないということでした。私の周りには、一緒にいた婚約者と目の前で離れ

てしまったという人もいました。あの日の天気は雪。その人は、雪を見るたびに涙を流していました。

### 昨日見た景色はどこへ | 日和山

地震の直後、私は日和山に来ていました。当時、ここから東の方にある渡波出張所の所長をしていて、地震発生時は、小学校の放課後児童クラブから防災教室を依頼されて、地震や津波、火災などの話をしよう準備している最中。揺れを感じてすぐ、高台の日和山に避難したんです。その時はまだ津波が来ていなくて、火災も起きていなかったの、普段と何ら変わらない景色でした。

翌日、日和山から南の地域で発生していた火災の消火活動に当たりました。普段は現場に出ることはなかったのですが、人手が足りなかったため出勤したんです。現場を見ると、前日に日和山から見た景色は全く無くなっていました。これが地獄絵図かと、言葉を失うほどの悲惨な光景です。今までの消火活動の中で、一番つらかったですね。

### この地を教訓に | 石巻南浜津波復興祈念公園

この場所は海から約500メートルで、6.9の津波が来ました。南浜地区だけで死者・行方不明者合わせて400人余り。被害が大きかったことから、災害危険区域に指定されて人が住めなくなり、今は公園として整備している最中です(今年3月28日(日)に開園)。

石巻市の調査によると、避難しなかった人は市全体で約4割。亡くなった人の数からすると、

実際はもっと多いと思います。ここは海から近いですが、日和山の山裾までは数百メートル。適切に避難していれば助かっていた人が多かったかもしれません。日和山に避難した門脇小学校のほかに、全員無事だった会社を二つ知っています。共通点を探ったところ、いずれも年に1回、真剣に避難訓練をしていました。訓練が命を救ったといっても過言ではないと思います。自分だったらどこに避難しようかと考え、何分まで到着するかを知ることが非常に大切。これが命を守るための備えになると、実感しています。

私はこの近くで生まれて10歳まで育ちました。道と建物は全部なくなってしまい、今では家があった正確な場所さえも分かりません。慣れ親しんだ街並みは残っていないので、もうふるさととは呼べなくなってしまった気がしています。皆さんには、ふるさとを今一度見つめ直して大切にしてもらいたいです。

私たち語り部は、最後に必ず「今日聞いたことを家族や知人に話してください」と伝えていきます。少しでも意識して、身を守る行動につなげてほしいと願っているからです。同じ体験をしてほしくないというのが、一番の思い。私たちの震災の経験を、皆さんの人生に生かしてください。



高城さんが指差す先に、小さな炎があります。ここを管理している人が毎日、燃料の灯油を足しに来るそうです



震災当日、日和山から。木に雪が積もり、奥で火災の様子も出典 東日本大震災アーカイブ 宮城(石巻市)

# 大切な命を守るために

私たちが住む平塚に津波が来るのは、今日かもしれません。避難する場所はどこか、どのルートを通るか、避難するのに何分かかかるか、あなたはきちんと考えていますか。

津波は、大きなエネルギーを持った水の塊として押し寄せます。数十メートルであっても足をさらわれ、がれきを巻き込んで襲ってくることから、けがをする危険もあります。津波ハザードマップや「逃げ地図」を活用して、自分や家族の大切な命を守るための備えを万全にしてください。

問 災害対策課 ☎21-9734

## 津波ハザードマップを再確認しよう ▶



ハザードマップに塗られた色は、平塚市に最大クラスの津波が襲ってきた場合に想定される、浸水域と浸水の深さを表しています。災害対策課の秦野真樹主任は「東日本大震災を教訓に、想定外をなくすという考えのもとで作られたデータを載せました。地震発生から間もなく波が来始め、6分後に最大となる9.6メートルの津波が来る想定になっています。その後も数メートルの波が繰り返しやってきます」と解説します。ほかにも津波避難ビル（右記事）の一覧や場所、河川遡上の範囲などを見ることができます。

「ハザードマップには記入欄があります。地震発生から自宅を出るまでの時間、歩いて避難場所に着くまでの時間、避難経路をシミュレーションして書き込んでください。そして、実際に

に経路を歩いてみてください」と秦野主任。自宅が浸水想定区域に入っていない方も、今一度津波対策を見直してほしいと話します。「学校や職場が海に近い場所にある人も、海沿いの道を頻りに通る人もいますよね。津波が相模川・金目川のどの辺りまで遡上するのかが心配な人もいます。海の近くに住んでいないから大丈夫と安心せずに『自分がもしその場所にいるら』と考えてください」。

ハザードマップは市役所本館3階の災害対策課で配布しているほか、各公民館などにもあり、市ウェブでもご覧いただけます。右上の2次元コードからアクセスできます。また、ハザードマップの使い方は、YouTubeの防災ひらつかチャンネルで詳しく解説しています。併せてご覧ください。



想定は最大クラスの津波。およそ2,000～3,000年、もしくはそれ以上に1度という発生頻度です

## 津波避難ビル

目印はA4サイズの緑色のマーク



津波から命を守るために、緊急かつ一時的に逃げ込める避難場所です。市内に78カ所あり、学校などの公共施設のほか、マンションや企業のビルなど、民間の施設も指定されています。対象となる地区の人口約4万7,000人に対し、収容可能人数の合計は約7万2,000人です。入口に鍵が掛かっているなどして入れない場合は、乗り越えたり鍵を壊したりしても構いません。施設が損傷した場合の修理費は、市が負担することとなっています。最新の津波避難ビル一覧は、市ウェブをご覧ください。

## 訓練で得た知識を地域に広げたい

11月8日、津波対策訓練が須賀公民館で開かれました。港地区の自治会役員や民生委員児童委員ら50人が参加。数人が机を囲み、大判用紙に印刷された図面で作業する「図上訓練」という手法で訓練しました。参加した港地区自治会連絡協議会の陶山正明会長（下写真左）は「今日は、得た知識を各地域で多くの人に伝える立場の人に参加してもらいました。地域に戻って広めてもらい、一人でも多くの方が助かるようにしたいです」と思いを話します。

訓練は、白地図上で自宅などの、普段自分がいる場所にマークを置いてスタート。震度7の

地震が起きた後、どのように行動するかを1分刻みで考えます。例えば地震直後の1分間は動けないと考えた人は何もせず、動けると思った人は1分間で歩ける距離を測って経路に線を引いていくという要領です。一通り終わった後、逃げ地図（右記事）と照らし合わせて、避難経路が理想的だったか否かを検証しました。

「ここは以前の大雨で水浸しになりましたよね。水が集まりやすいだろうから、津波でも危険性が高い。避けた方がいいかもしれないです」などとアドバイスする場面もあり、充実した訓練となりました。

## 津波ハザードマップをアレンジ ▶

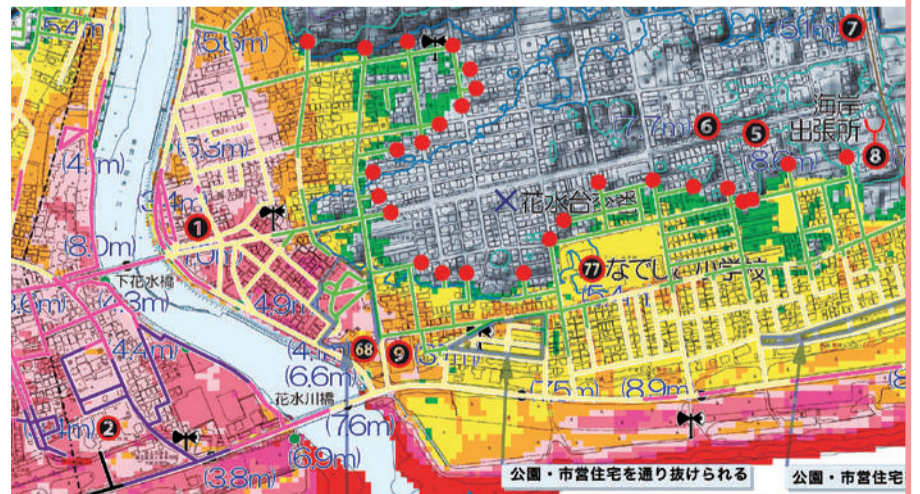
### 逃げ地図



逃げ地図とは津波ハザードマップをアレンジしたものです。道路を歩いて避難する際、浸水想定区域の外に出るまでに何分かかかるのか、目安を知ることができます。命を守ることを最優先に考え、まずは津波が来ないところまで行き、その後さらに安全な場所を目指して避難

できるようにと工夫されています。平成29年度、自治会・学校・津波避難ビル管理者などの協力の下で図上訓練を実施し、市が取りまとめて完成しました。

逃げ地図の全体図や使い方など、詳しくは市ウェブをご覧ください。右上の2次元コードからアクセスできます。



浸水想定区域内の道路が5色で塗られています。赤丸●の避難目標ポイントまで最短距離で、緑色は3分・黄色は6分・桃色は9分・紫色は12分・黒色は15分。一般的な歩行速度の毎分60メートルを基準としています。避難目標ポイントは、真っ先に通過したい場所と考え、到着後もさらに安全な場所を目指して避難を続けます。その際、浸水想定区域に再び入らないように、注意が必要です



広報紙をより良いものとするためにウェブアンケートを実施しています。ご意見をお寄せください。右の2次元コードからアンケートページにアクセスできます。

